

令和3年度 伊勢市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和4年5月

伊勢市（三重県）

○計画期間：令和3年4月～令和8年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和3年度終了時点（令和4年3月31日）の中心市街地の概況

本市では、平成28年に第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画の認定を受け、官民が連携して事業に取り組み、にぎわいが徐々に広がってきた。

そのにぎわいを、中心市街地全体の更なる活性化へと繋げるため、第2期伊勢市中心市街地活性化基本計画を策定し、『働きやすく、暮らしやすい、歴史と文化を感じる 伊勢のまち』をビジョンに掲げ、43事業に取り組んでおり、令和3年度が1年目となる。

令和3年度は、令和2年から続いている新型コロナウイルス感染症の影響により、人が集うことを目的としたイベントの中止が相次ぎ、また、緊急事態宣言の発令や移動自粛による観光客の激減など、中心市街地全体で活気が失われているように感じられる。

しかしながら、第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画で活性化に繋がる主たる事業としていた「伊勢市駅前地区第1種市街地再開発事業（B地区）」の複合施設が令和4年3月に一部供用開始した。今後、事業中のC地区も含め、施設の利用者が商店街や周辺区域へ回遊する仕掛けづくりを、近隣商店街と連携して取り組むことで、にぎわいを創出していく。

さらに、令和4年1月に地域おこし協力隊員を中心市街地活性化部門で1名、観光魅力創出部門で2名の採用を行った。協力隊員の市民にはない新鮮な目線で地域の魅力を引き出し、また、引き続き伊勢まちづくり株式会社を中心となり、官民や各事業者が連携して事業を進めていくことにより、with コロナ時代の新たな生活スタイルに適応した施策を構築し、中心市街地の活性化に繋げる。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	令和2年度 （計画前年度）	令和3年度 （1年目）	令和4年度 （2年目）	令和5年度 （3年目）	令和6年度 （4年目）	令和7年度 （5年目）
人口	7,323人	7,162人				
人口増減数	△177人	△161人				
自然増減数	△93人	△112人				
社会増減数	△84人	△49人				
転入者数	200人	191人				

※人口増減数・自然増減数・社会増減数・転入者数については、前年度の基準日から当該年度内の基準日までの1年間の変動数を記載している。

(2)地価

(単位：円/㎡)

	令和2年度 (計画前年度)	令和3年度 (1年目)	令和4年度 (2年目)	令和5年度 (3年目)	令和6年度 (4年目)	令和7年度 (5年目)
中心市街地内 商業地域 (一之木2丁目 2280番)	50,500	49,400				
中心市街地内 商業地域 (本町426番 2)	142,000	142,000				
中心市街地隣接 第一種住居地域 (常磐1丁目 1160番)	49,400	48,700				
中心市街地隣接 近隣商業地域 (岩淵1丁目 712番)	70,500	69,600				

2. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

第2期伊勢市中心市街地活性化基本計画の1年目である令和3年度は、昨年を引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、中心市街地でのイベント及び事業が中止、延期となり、活性化に向けて大きな進展が見受けられなかった。しかしながら、ウィズコロナ、アフターコロナに対応してデジタル化された「まちなか案内事業」や、歩行者通行量を通年分析するAIカメラを使った「商店街等振興対策事業」など、新たな取り組みも進められた。

活性化の目標に掲げる指標「商店街の歩行者通行量」については、新型コロナウイルス感染防止による不要不急の外出自粛要請のため、基準値を下回る結果となった。しかし、第1期伊勢市中心市街地活性化基本計画の主事業であった駅前周辺の「伊勢市駅前地区第一種市街地再開発事業(B地区)」や、本計画の「伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業」、さらに駅前から続く伊勢銀座新道商店街の「しんみち未来創造事業」などの取り組みに進捗が見られることから、コロナ収束後は駅前から商店街にかけての回遊、延いては中心市街地のにぎわい創出に期待ができる。今後はB地区の複合施設の早期完全開業に向けて要請及び協力を行うほか、商店街への回遊の誘引だけでなく、滞留を促すような宿泊施設等の開業誘致などが必要であると考えます。

一方、商店街に対する支援として「商店街等振興対策事業」や「商店街空き店舗対策支援事業」などに取り組んでいるが、目標指標である商店街の新規出店数は年平均の基準値を下回る6店舗となった。ただ、本年度の中心市街地全域では58店舗の新規出店があるため、基準値未達の原因が新型コロナウイルス感染症の影響だけにあるとは断言できず、商店街での新規開業には根本的な課題を抱えていることが顕在化したとも捉えられる。以前より空き店舗は住居兼店舗の場合、所有者が店舗として賃貸する意思を持っていないケースが多いことが指摘されている。今後は本年度より「専門人材活用事業」によって採用された地域おこし協力隊などが他事業と連携し、空き店舗対策支援等の抜本的改革を行っていく必要があると考えます。

これらの目標達成に向けては、産業の守り神『豊受大御神』がお祀りされた外宮の鳥居前町で商売、事業を続けてきた民間団体、民間事業者がまちづくりの主体となり、公共的団体が常に寄り添いサポートを行う官民連携の体制が重要である。当協議会構成員が継続して密な情報交換を行うことにより、各々の課題を整理し、中心市街地活性化の指標を達成すべく、日本人の心のふるさと神宮が御鎮座する町「伊勢」にふさわしい取組を進めていく必要がある。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの達成状況	前回の見通し	今回の見通し
商業の活性化とまちなか回遊性の向上	歩行者通行量	3,943 人 (H30 年度)	4,140 人 (R7 年度)	3,359 人 (R3 年度)	C	-	①
	新規出店数	50 店舗 (H27～R 元合計)	55 店舗 (R3～R7 合計)	6 店舗 (R3 年度)	C	-	①
	【参考指標】 中心市街地の新規出店数	-	-	58 店舗 (R3 年度)	-	-	-
	【参考指標】 中心市街地 区域内全体 店舗数	1,406 店舗 (R2 年度)	-	1,385 店舗 (R3 年度)	-	-	-
都市機能の強化と活発な地域活動によるまちなか居住の促進	中心市街地の 居住人口の 社会増減	△177 人 (H27～R 元合計)	±0 人 (R3～R7 合計)	△54 人 (R3 年度)	C	-	①
観光の取組による中心市街地のにぎわい向上	観光関連施設等の利用者数	49,337 人 (H27～R 元年平均値)	53,300 人 (R7 年)	10,852 人 (R3 年)	C	-	1
	【参考指標】 中心市街地 内宿泊施設 の宿泊者数	322,900 人 (R 元年)	-	180,519 人 (R3 年)	-	-	-

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

<目標達成に関する見通しの分類>

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ1、2とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量」については、昨年度と比べ、604 人の増加となったが、基準値を下回る結果となった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、全国的に人の移動が自粛されていることが原因であると考えられる。

今後、「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」の商業施設利用者や分譲住宅の入居者を各商店街の事業により商店街へ誘導するとともに、また、「宮後 1 丁目 1 号線整備事業」「宮後浦口線整備事業」で人々が集まり交流できる空間を整備することで、にぎわいを創出していく。さらに、「公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業」等により公共交通機関の利用促進を図り、観光客を外宮参拝に誘導するとともに、その観光客を中心市街地内の各商店街へ促す仕掛けづくりを行い、エリア全体へにぎわいを広げることで、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度落ち着き、移動の自粛が解除されれば、目標達成は可能であると見込まれる。

「新規出店数」については、新型コロナウイルス感染症による来店者の減少や時短営業などの様々な規制を受け、基準値（50 店舗／5 箇年）の年平均である 10 店舗を下回る結果となった。関連事業を引き続き実施し、更に、伊勢まちづくり株式会社、地域おこし協力隊員、商店街が連携し、各商店街の魅力向上に取り組み、新規出店意欲に繋げることで、新型コロナウイルス感染症収束後の目標達成は可能であると見込まれる。

「中心市街地の居住人口の社会増減」については、今年度は 54 人の減少となった。今後、「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」による分譲住宅の供給、さらに「空き家対策事業」、「空家総合事業」、「木造住宅耐震補強等事業」による空家の利活用を図り、with コロナ時代における働き方の変化を見据えた「まちなか移住創業促進事業」による伊勢市の魅力等の PR を行い、まちなかへの居住や移住を促進させることで、目標達成は可能であると見込まれる。

「観光関連施設等の利用者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、公共機関を利用した観光客が減少していること、宿泊客も少ないことから、観光関連施設の利用者、特に手荷物預かり所の利用者が極端に減少しており、基準値を大きく下回る結果となった。また、多くの事業が予定通り行われていない状況であることも一つの要因となっている。

今後、地域おこし協力隊員によって、新しい視点で観光の魅力を見出し、磨き上げることで、観光客の誘致を図り、さらに、観光地混雑状況の情報提供等、with コロナ時代の新しい生活スタイルに対応した施策や関連事業を実施し、また、新型コロナウイルス感染症の影響が一定程度落ち着けば、観光客数が平常時に戻ること目標達成は可能であると見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

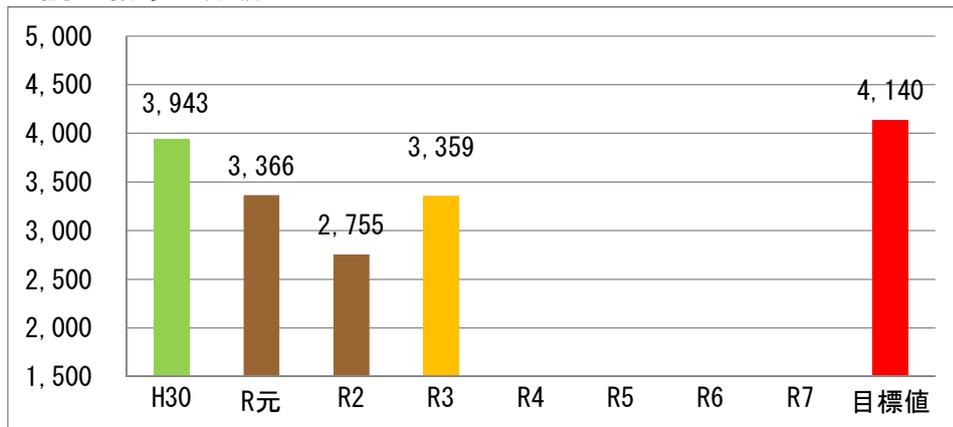
前回のフォローアップは実施していない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「歩行者通行量」(目標の達成状況【 C 】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P76～P83 参照

●調査結果と分析



年度	(人/日)
H30	3,943 (基準値)
R元	3,366
R2	2,755
R3	3,359
R7	4,140 (目標値)

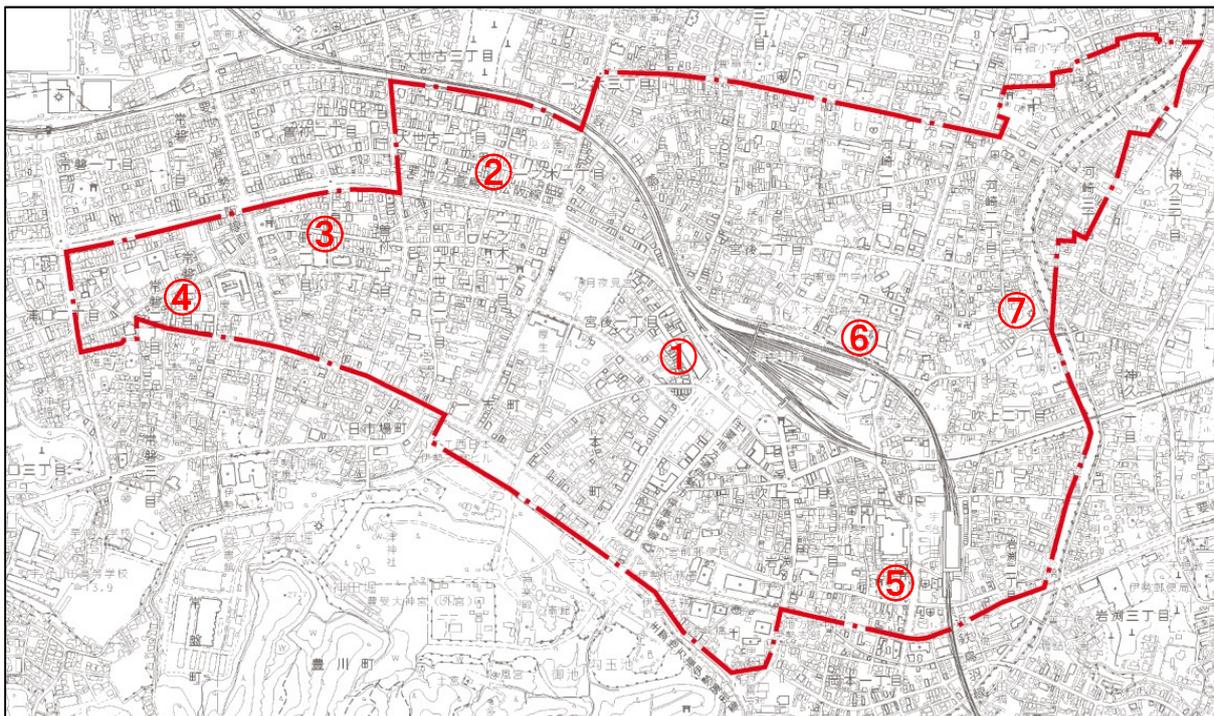
※調査方法：土曜日の9時～18時に中心市街地内の7地点を通過する歩行者及び自転車を計測

※調査月：令和4年3月

※調査主体：伊勢まちづくり株式会社及び伊勢市

※調査対象：中心市街地内の商店街に設けた5地点及び伊勢市駅以北の市道2地点の歩行者及び自転車の通行量

図 歩行者通行量の調査地点



① 伊勢市駅前商店街 中央	⑤ 明倫商店街 西
② 伊勢銀座新道商店街 中央	⑥ 市道北口線
③ 伊勢高柳商店街 中央	⑦ 市道外宮二見線
④ 浦之橋商店街 西	

歩行者通行量の調査結果

(単位:人)

	R2 年度 (計画前年度)	R3 年度 (1 年目)	R4 年度 (2 年目)	R5 年度 (3 年目)	R6 年度 (4 年目)	R7 年度 (5 年目)
①伊勢市駅前商店街 中央	615	770				
②伊勢銀座新道商店街 中央	424	498				
③伊勢高柳商店街 中央	541	450				
④浦之橋商店街 西	308	343				
⑤明倫商店街 西	150	265				
⑥市道北口線	433	712				
⑦市道外宮二見線	284	321				
合計	2,755	3,359				

〈分析内容〉

「歩行者通行量」について、基準値も下回る 3,359 人という結果となった。調査日が、新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の期間と重なり、全国的に人の移動が自粛されていることが原因であると考えられる。しかし、昨年度と比較すると 604 人の増加となっており、徐々ににぎわいを取り戻しつつあることがわかる。

また、AI カメラによる年代分析からの考察によると、各商店街とも若年層である 10 代 20 代の通行が少ない結果が出ており、商店街に生活を目的とした通行はあるが、娯楽や観光を目的とした人が訪れていない可能性がある。また、RESAS（地域経済分析システム）の市内滞在人口（休日）の分析では、20 歳代のうち愛知県や岐阜県など車で訪訪可能な地域からきている方が約 4 割を占めていることから、高速道路を利用した来訪者による目的地以外への回遊が行われていないと考えられる。

また、伊勢市観光実態調査における令和 3 年と令和元年の数値を比較したところ、利用した交通機関のうち「自家用車・バイク」の割合が 11.9%増であり、また、立ち寄った観光地のうち「外宮」の割合は 11.1%増加しているが、「外宮参道」の割合は 10.3%減少している。このことから、車を利用して目的地のみを観光する人が増え、外宮参道などの目的地以外を回遊する人が減少していることがわかる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +230 人 令和3年12月に都市再開発法に基づく三重県知事の認可を受け、再開発組合が設立され、実施設計、権利変換計画案の作成を行った。
事業の今後について	計画どおり令和7年度に工事完了するよう、令和4年度中の権利変換計画認可、補償費の支払いを目指す。

②. 宮後1丁目1号線整備事業（伊勢市）

事業実施期間	令和元年～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅を中心とした地域の道路を再整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +32 人 令和2年度に1期工事が完成し、開放的な道路の再整備、人々が交流する広場に休憩施設としてのベンチ設置、周囲の施設等を活かした影絵の投影により、人々が集い憩える空間を確保した。現在は2期工事に向けて関係機関と協議を行っている。
事業の今後について	再開発事業者等関係機関と調整を図り、令和5年度から2期工事を行う。

③. 宮後浦口線整備事業（伊勢市）

事業実施期間	令和3年度～令和5年度【実施中】
事業概要	伊勢銀座新道商店街の通りを景観に配慮した舗装に整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和3年～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +40人 令和3年度に道路整備に伴う測量・設計を行い、並行して他工事との調整や商店街等と協議を行った。
事業の今後について	他工事及び商店街等との調整を行い、令和4年度から工事を行う。

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業（伊勢市）

事業実施期間	平成26年度～【実施中】
事業概要	公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	東海旅客鉄道とのタイアップによる東京駅等でのポスター展開について、上期（4月～9月）は4月～6月に、下期（10月～3月）は11月～1月に掲出した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により旅行需要が低下した時期があるものの、連動する旅行商品については、上期530件、下期3,401件の販売実績があり、市内において特典のクーポン引換実績も、上期52件、下期1,512件と、旅行需要が戻った際の来訪意欲向上と滞在時間延伸等に寄与している。
事業の今後について	令和4年度上期（4月～9月）事業は調整済みのため、継続して事業を推進していくとともに、下期（10月～3月）についても事業継続に向けて調整する予定。

⑤. 着地型旅行商品造成事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	旅行商品や OTA、コンビニなどで販売するクーポンについて、新型コロナウイルス感染症の影響により旅行需要が低下したこともあり、販売実績は 9,331 件と、例年に比べ落ち込み、観光消費額の低下は否めない。ただし、旅行需要が戻った月や過去にも Go To トラベルキャンペーンが実施された時など、需要は大幅な回復を見せたこともあるため、一定程度は来訪意欲向上に寄与している。
事業の今後について	令和 4 年度事業は調整済みのため、継続して事業を推進していくとともに、クーポン内容のブラッシュアップも検討する。

⑥. 文化資源保存活用事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館としてとらえ、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。また、整備予定の郷土資料館を拠点として、博物館施設の企画展示や催し物情報、季節に応じた見どころなどを情報発信する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「伊勢まるごと博物館スタンプラリー」は市内外の博物館施設等にパンフレットを設置し、参加を案内している。「市民ふれあいスポカルウォーク」は 5 回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により 1 回のみでの開催となった。「夏休み博物館イベント」は複数の施設で子ども対象の企画を催し、1,000 人を超える参加があった。「伊勢の御師フォーラム 2021」は年間を通じて講演会 9 回、展示会 7 回、体験企画 7 回を開催し、延べ約 1,400 人の参加があった。
事業の今後について	各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子どもの施設利用を促す企画等、来館者の増加につながる取組を進めていく。

⑦. 商店街等振興対策事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、商店街等における取組に対する補助事業の活用はあまり進まなかった（1件）。伊勢まちづくり株式会社における情報発信事業では、各商店街等の歴史に目を向けた記事を制作し、ウェブ上での公開を行った。令和3年度に全箇所稼働したAI カメラ事業についても、データ収集と分析・活用に向けて進めていく。
事業の今後について	令和3年度に新たに着手したAI カメラ事業から得られる通年の歩行者数及び属性等情報を分析・活用しながら、各商店街における魅力向上やPRにつなげる。

⑧. まちなか案内事業（伊勢商工会議所ほか）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	「お伊勢さん観光案内人」事業は、緊急事態宣言及びまん延防止措置により一部活動休止を余儀なくされたが、伊勢まちづくり株式会社と協力して三重県のおもてなし認証制度に登録するなど、ウィズコロナ、アフターコロナも見据えて感染拡大防止策を徹底していることをアピールした。しかし、令和3年の外宮の案内人利用客数は令和元年比3.4%まで落ち込んでいる。また、「お伊勢さんまち歩きクーポン、神宮オーディオガイド」はデジタル化し、三重県民限定のキャンペーンなどで一時的に利用は増加したものの、年間を通しては観光客の激減でまちなか周遊は大きな成果を得ていない。
事業の今後について	コロナに対する国・三重県などの判断基準にのっとり、「お伊勢さん観光案内人」事業の活動を段階的に再開していく。「お伊勢さんまち歩きクーポン、神宮オーディオガイド」については、当面は三重県民対象に周知を行い、観光客の回復が見込める時期に合わせてWEB 広告などの周知活動を行う。

⑨. 河崎まちなみ魅力創出事業（伊勢河崎まちづくり衆ほか）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	かつて問屋街として栄えた河崎地区にて、登録有形文化財の伊勢河崎商人館の活用(だいどこ市、商人市ほか)や、勢田川を活用した事業の実施、さらに地区内の歴史的町家・空蔵等の活用を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 2 年 8 月から令和 3 年 7 月にかけて、公益財団法人区画整理促進機構の助成金を活用し、「歴史的町家・蔵の活用”継続”に関する検討事業」として事業計画を作成。民間事業者とも連携し、空き町家、空き蔵の活用案の検討中。 伊勢まちづくり株式会社のデジタル版伊勢河崎周遊パス、船を使った勢田川運航ツアーの造成に協力した。
事業の今後について	「専門人材活用事業」における地域おこし協力隊や伊勢まちづくり株式会社と連携し、令和 2 年度に伊勢河崎通り活性化会議が作成した事業計画を元に、エリアマネジメント、空き町家、空き蔵の活用検討、観光サービス事業を推進していく。

⑩. 繋ぐ高柳希望の風事業（伊勢高柳商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンを基に、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	商店街ににぎわいを生み出すため、火災現場跡地と複数ある空き店舗を利活用し、並行して多種多様なイベントを継続的に計画していたが、緊急事態宣言、まん延防止措置等により開催に至らなかった。また、ビジョンについても同様の理由により、計画に取り組むことができなかったが、その中でも商店街には 3 件の新規出店があった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況に注視しつつ、ビジョンに基づいて高柳商店街周辺のエリアマネジメントを行う組織（運営会社）を設立し、高柳商店街との連携を図っていく。また、三重県出身者・関係者で構成されるクリエイターチーム「みえクリエイティブラボ」や伊勢市維持課、伊勢まちづくり株式会社、地域おこし協力隊と連携し、事業の実現化を行っていく。

⑪. 伊勢市駅前商店街活性化事業（伊勢市駅前商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たなにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大によって、令和 3 年度の計画していた勉強会やビジョンのブラッシュアップなど人が集う事業は開催できなかった為、令和 2 年度に作成した商店街ホームページにて、各店舗の情報を定期的に発信した。 また「これは伊勢モール（宮後 1 丁目 1 号線整備事業）」改修工事の半分が終わり、伊勢市駅に近い商店街入り口には、新たなスタートを切る為、通り名を「月ノ宮通り」と改名し、伊勢市と共同で通り名のモニュメントを設置した。
事業の今後について	当商店街内の伊勢市駅前 B 地区第一種市街地再開発事業が稼働し、にぎわいを取り戻していく事を鑑み、伊勢市駅前商店街振興組合の組織体制強化をする必要があるため、再度、商店街ビジョンと運営の再構築を図って行く。

⑫. しんみち未来創造事業（伊勢銀座新道商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により多くのイベントが中止となる中、商店街の魅力向上のために、中心市街地商業活性化診断・サポート事業（セミナー型）活用し東京から講師を招いた下水道、路面整備勉強会を計 4 回開催し、アーケード内の下水道、路面整備計画は 3 月に完成した。 また、緊急事態宣言、まん延防止措置が講じられていない 12 月～1 月には昨年度制作したイルミネーションイベントを今シーズンも行い、来客数の増加に努めた。
事業の今後について	下水道、路面整備計画に則り事業を進めるほか、イルミネーションイベントを継続して開催するなど、しんみち商店街として観光客の取り込みに向けて展開していく。

⑬. 空家対策事業（伊勢市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住者を対象とした空家の活用促進を通じて、空家の再利用と移住者の定住による人口増を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、空家バンク制度について、登録様式の簡略化を図るとともに、オンラインによる申請受付を開始するなどの制度改善に取り組み、18件の空家が新規物件登録された。 中心市街地活性化区域内の厚生学区においては、空家と市が把握している物件196件のうち、ポスト等が確認できた100件に個別に登録を促すチラシの投函を試験的に行うなど、広報周知の強化を実施したが、中心市街地活性化区域内の新規物件登録は0件となった。 また、移住者向けの空家改修補助金について、中心市街地活性化区域内の交付実績は0件であった。
事業の今後について	試験的に厚生学区のみで実施したチラシ投函について、その効果も見極めながら、中心市街地活性化区域内の他学区においても実施することを検討するなど、更なる広報周知の強化に努めることにより、空家所有者の利活用に関する意識を向上し、空家の再利用の促進を図っていく。

⑭. 空家総合事業（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	空家の適正管理の周知、実態調査、危険空家の除却推進等、計画的な空家対策を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和2年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、固定資産税納税通知書約6万通へのチラシ同封に加えて、主に被保険者死亡による保険料の変更通知である後期高齢者医療保険料額決定納入通知書にも、空家の相続について考える機会となることからチラシ同封を開始するなど、空家の適正管理に関する広報周知の強化を実施したほか、令和4年度以降も空家等対策を計画的に推進するため、第2期伊勢市空家等対策計画の策定を行った。 また、昨年度実施した実態調査の結果に基づき、危険度が高いと判断された物件から所有者の調査を実施し、管理依頼を行っており、特定空家2件を含む老朽化した危険な空家4件（うち中心市街地活性化区域内は特定空家1件、不良空家2件の計3件）に対し除却補助を実施するなど、周辺地域の居住環境の向上に寄与することができた。
事業の今後について	第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、引き続き管理不全空家の所有者に管理依頼を実施し改善を求めながら、老朽化した危険な空家について早期除却を更に促進することで居住環境の向上を図っていく。

⑮. まちなか移住創業促進事業（伊勢市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>[伊勢市中心市街地活性化協議会事務局]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月 1 回の頻度で、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社による移住創業促進会議を実施。 <p>(令和 3 年度の主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が参加する移住相談会や説明会の内容検討 ・伊勢市への移住をキーワードとして、市内での暮らしを体験的に紹介する移住 PR 動画「新・伊勢者語」の内容検討 ・若者定着に向けた地元企業経営者と皇学館大学生の交流事業の内容検討（12/22 実施） ・創業・就業促進にかかる情報共有 等
事業の今後について	<p>[伊勢市中心市街地活性化協議会事務局]</p> <p>月 1 回の頻度で、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社による移住創業促進会議の実施継続するほか、連携して、PR や企画の検討等も継続していく。</p> <p>(参考)</p> <p>第 2 期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI</p> <p>市の実施する移住イベント等への参加者数</p> <p>目標値 1,000 人(令和 2～6 年度合計)</p> <p>移住関連施策を利用した移住者数</p> <p>目標値 100 人 (令和 2～6 年度合計)</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

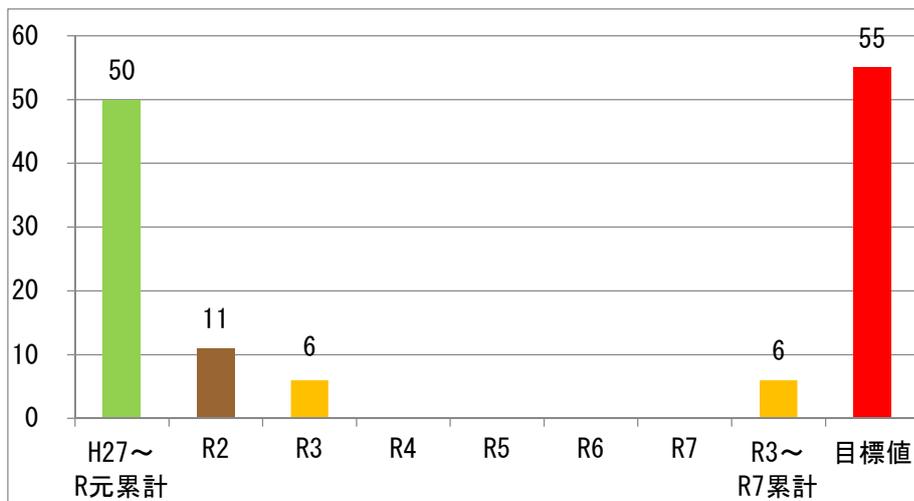
昨年度と比べ 604 人の増加となったが、基準値を下回る結果となった。ハード事業は順調に進捗しているが、商店街でのイベントや広範囲からの誘客を目的とした催しなど、回遊を促進させるソフト事業は中止となった。

今後は AI カメラの歩行者通行量を注視しつつ「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」による複合施設の整備、伊勢市駅前商店街や伊勢銀座新道商店街における道路整備、各商店街の取組により、商店街の魅力を向上し、中心市街地の回遊を図る。また、観光客に向け、公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業等を継続して行い、外宮への参拝者を誘導するとともに、その観光客を他の事業と連携して中心市街地内の各商店街へ促し、エリア全体へにぎわいを広げていく。

(2) 「新規出店数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方は認定基本計画 P83～P84 参照

●調査結果と分析



年度	(店舗)
H26～R元	50 (基準値)
R2	11
R3	6 (最新値)
R3～R7	6 (累計)
R3～R7	55 (目標値)

※調査方法：現地確認及び商店街振興組合へ聞き取り

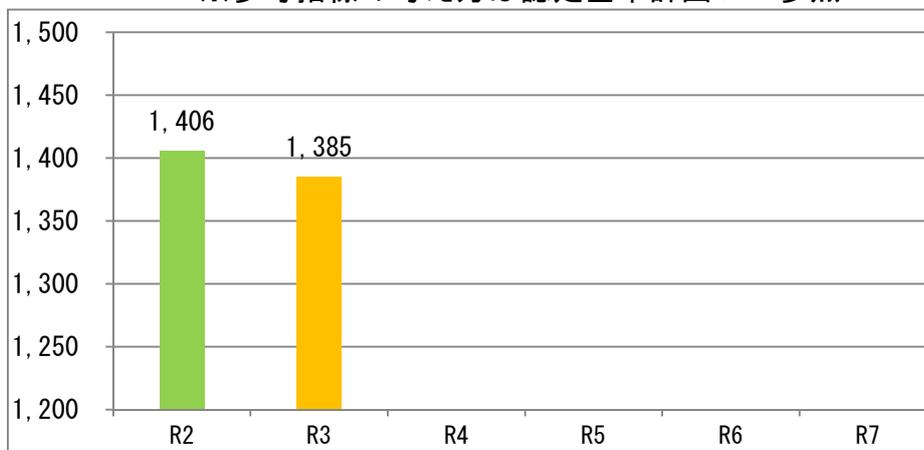
※調査月：令和4年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地内の5つの商店街

【参考指標】中心市街地活性化区域内全体店舗数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P85 参照



年度	(店舗)
R2	1,406
R3	1,385

※調査方法：現地確認

※調査月：令和4年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域全域

〈分析内容〉

新規出店への補助を行う「商店街空き店舗対策支援事業」の効果により5件の新規出店に繋がるなど、全体で6件の新規出店があったが、基準値(50店舗/5箇年)の年平均である10店舗を下回り、目標達成には及ばなかった。

また、参考指標である中心市街地の新規出店数について、新規出店は58件あったものの、全体店舗数は昨年度より21店舗減少し、1,385店舗となった。新型コロナウイルス感染症の影響が長引いていること、また、後継者不足等による閉店が要因であると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】（民間事業者）

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和2年度～令和7年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +3店舗 令和3年12月に都市再開発法に基づく三重県知事の認可を受け、再開発組合が設立され、実施設計、権利変換計画案の作成を行った。
事業の今後について	計画どおり令和7年度に工事完了するよう、令和4年度中の権利変換計画認可、補償費の支払いを目指す。

②. 創業支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	市内での創業や第二創業、市外から事業所移転を行う者にかかる創業・移転に必要となる経費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +15店舗 創業・移転促進補助金について、29件の交付を決定し、前年度比約2倍のペースで活用が進んだ。
事業の今後について	引き続き制度のPRを行うとともに、創業予定地を検討している者に対し、中心市街地内への出店を促進する。

③. 商店街空き店舗対策支援事業（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	商店街等が区域の不足業種やニーズに敵う業種を空き店舗に誘致する事業、空き店舗を市民に開放し、ギャラリー等として活用する事業に対して、まちづくり会社が補助をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +30店舗 最新値 +5店舗 5つの商店街等に対し、計7件の出店（継続2、新規5）に関する補助を行った。新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、年平均6店舗を想定する目標に対して、十分に寄与したと考えている。
事業の今後について	引き続き制度のPRを行うとともに、各商店街等との協調により、空き店舗への出店誘致に努める。

④. 商店街等振興対策事業【再掲】（伊勢市、伊勢まちづくり株式会社）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	消費者に魅力ある商店街づくりのために行う事業に対して補助をする。また、中心市街地において商店街等が行うイベント等を、伊勢まちづくり株式会社が情報発信する。さらに、商店街等における歩行者通行量調査について、AI カメラを活用した実証実験を行い、得られたデータを分析活用するとともに、その効果を検証する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、商店街等における取組に対する補助事業の活用はあまり進まなかった（1件）。伊勢まちづくり株式会社における情報発信事業では、各商店街等の歴史に目を向けた記事を制作し、ウェブ上での公開を行った。令和3年度に全箇所稼働したAI カメラ事業についても、データ収集と分析・活用に向けて進めていく。
事業の今後について	令和3年度に新たに着手したAI カメラ事業から得られる通年の歩行者数及び属性等情報を分析・活用しながら、各商店街における魅力向上やPRにつなげる。

⑤. 商業魅力アップ支援事業（伊勢市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】
事業概要	地域住民や観光客のニーズに応えた商業環境の整備やにぎわいの創出に新たに取り組む商業団体等に対して、事業費の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の影響もあって、補助事業の活用は例年に比較して進まなかった（決定2件、相談1件）。
事業の今後について	補助事業の活用がやや鈍化しているため、制度内容を各商業団体等へ丁寧に伝え、特にwithコロナ時代の先を見据えたにぎわいの創出につながる活用を促進する。

⑥. 伊勢市駅前商店街活性化事業【再掲】（伊勢市駅前商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	組合活動と商店街地区活性化のため、組合の既存ビジョン・プランの更新、市街地再開発事業の事業者との連携を継続することで、伊勢市駅前の新たなにぎわいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症拡大によって、本年度計画していた勉強会やビジョンのブラッシュアップなど人が集う事業は開催できなかった為、昨年度、作成した商店街ホームページにて、各店舗の情報を定期的に発信した。 また「これは伊勢モール（宮後 1 丁目 1 号線整備事業）」改修工事の半分が終わり、伊勢市駅に近い商店街入り口には、新たなスタートを切る為、通り名を「月ノ宮通り」と改名し、伊勢市と共同で通り名のモニュメントを設置した。
事業の今後について	当商店街内の伊勢市駅前 B 地区第一種市街地再開発事業が稼働し、にぎわいを取り戻していく事を鑑み、伊勢市駅前商店街振興組合の組織体制強化をする必要があるため、再度、商店街ビジョンと運営の再構築を図って行く。

⑦. しんみち未来創造事業【再掲】（伊勢銀座新道商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	商店街の将来像を定めた既存ビジョンの更新、またこれに基づいた組合事業を継続し、複数ある空き店舗の削減、来客数の増加を目指し、商店街の魅力向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により多くのイベントが中止となる中、商店街の魅力向上のために、中心市街地商業活性化診断・サポート事業（セミナー型）を実施し、また、東京から講師を招いた下水道、路面整備勉強会を計 4 回開催し、アーケード内の下水道、路面整備 3 月に完成した。 また、緊急事態宣言、まん延防止措置が講じられていない 12 月～1 月には昨年度制作したイルミネーションイベントを今シーズンも行い、来客数の増加に努めた。
事業の今後について	下水道、路面整備計画に則り事業を進めるほか、イルミネーションイベントを継続して開催するなど、しんみち商店街として観光客の取り込みに向けて展開していく。

⑧. 繋ぐ高柳希望の風事業【再掲】（伊勢高柳商店街振興組合）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	平成 30 年に発生した商店街中心部の火災事故跡地である被災空地の利活用を主として作成した商店街ビジョンを基に、被災空地活用の事業検討、減少する組合員数、増える空き店舗等の課題へ取組み、100 年以上の歴史をもつ商店街を次世紀へと繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	商店街ににぎわいを生み出すため、火災現場跡地と複数ある空き店舗を利活用し、並行して多種多様なイベントを継続的に計画していたが、緊急事態宣言、まん延防止措置等により開催に至らなかった。また、ビジョンについても同様の理由により、計画に取り組むことができなかったが、その中でも商店街には 3 件の新規出店があった。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症の状況に注視しつつ、ビジョンに基づいて高柳商店街周辺のエリアマネジメントを行う組織（運営会社）を設立し、高柳商店街との連携を図っていく。また、三重県出身者・関係者で構成されるクリエイターチーム「みえクリエイティブラボ」や伊勢市維持課、伊勢まちづくり株式会社、地域おこし協力隊と連携し、事業の実現化を行っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

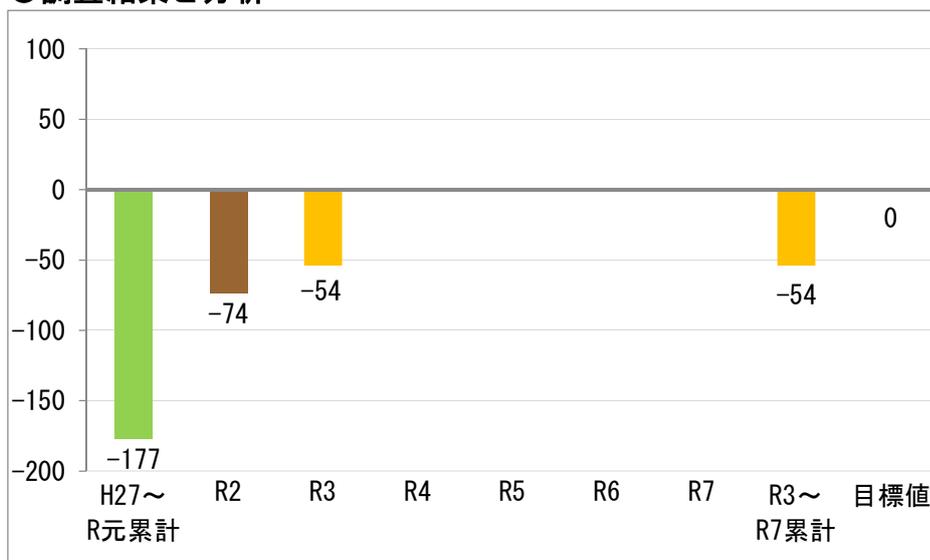
新規出店数について、基準値を下回る 6 店舗という結果となった。創業支援の相談は多数あることから、関連事業を引き続き実施することで中心市街地へ誘導し、伊勢まちづくり株式会社、地域おこし協力隊員、商店街と連携し、各商店街の魅力向上に取り組むことで新規出店に繋げ、目標達成を目指す。

また、市内全体で後継者不足による閉店が見受けられることから、事業承継に対する支援などを検討していく必要がある。

(3) 「中心市街地の居住人口の社会増減」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P85～P86 参照

●調査結果と分析



※調査方法：住民基本台帳

※調査月：令和3年4月～令和4年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地内

〈分析内容〉

中心市街地の居住人口の社会増減について、54人の減少となった。昨年度の74人の減少と比較すると、改善が見られる。また、市内転居による中心市街地の居住人口の増減が1人の減少に対して、市外転入、市外転出による増減が53人の減少となった。市外への転出者を減らし、市外からの転入者を呼び込む取組が今後の課題となる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢市駅前C地区第一種市街地再開発事業【再掲】(民間事業者)

事業実施期間	令和元年度～令和7年度【実施中】
事業概要	伊勢市駅前地区の再開発事業により、商業・住宅などの都市機能の更新を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等)(国土交通省)(令和2年度～令和7年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業目標値 +140人 令和3年12月に都市再開発法に基づく三重県知事の認可を受け、再開発組合が設立され、実施設計、権利変換計画案の作成を行った。
事業の今後について	計画どおり令和7年度に工事完了するよう、令和4年度中の権利変換計画認可、補償費の支払いを目指す。

②. 空家対策事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	令和元年度～【実施中】
事業概要	移住者を対象とした空家の活用促進を通じて、空家の再利用と移住者の定住による人口増を図る。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業（中心市街地活性化区域）（国土交通省）（令和2年度～令和5年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、空家バンク制度について、登録様式の簡略化を図るとともに、オンラインによる申請受付を開始するなどの制度改善に取り組み、18件の空家が新規物件登録された。 中心市街地活性化区域内の厚生学区においては、空家と市が把握している物件196件のうち、ポスト等が確認できた100件に個別に登録を促すチラシの投函を試験的に行うなど、広報周知の強化を実施したが、中心市街地活性化区域内の新規物件登録は0件となった。 また、移住者向けの空家改修補助金について、中心市街地活性化区域内の交付実績は0件であった。
事業の今後について	試験的に厚生学区のみで実施したチラシ投函について、その効果も見極めながら、中心市街地活性化区域内の他学区においても実施することを検討するなど、更なる広報周知の強化に努めることにより、空家所有者の利活用に関する意識を向上し、空家の再利用の促進を図っていく。

③. 空家総合事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	空家の適正管理の周知、実態調査、危険空家の除却推進等、計画的な空家対策を推進する。
国の支援措置名及び支援期間	空き家対策総合支援事業（国土交通省）（令和2年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、固定資産税納税通知書約6万通へのチラシ同封に加えて、主に被保険者死亡による保険料の変更通知である後期高齢者医療保険料額決定納入通知書にも、空家の相続について考える機会となることからチラシ同封を開始するなど、空家の適正管理に関する広報周知の強化を実施したほか、令和4年度以降も空家等対策を計画的に推進するため、第2期伊勢市空家等対策計画の策定を行った。 また、昨年度実施した実態調査の結果に基づき、危険度が高いと判断された物件から所有者の調査を実施し、管理依頼を行っており、特定空家2件を含む老朽化した危険な空家4件（うち中心市街地活性化区域内は特定空家1件、不良空家2件の計3件）に対し除却補助を実施するなど、周辺地域の居住環境の向上に寄与することができた。
事業の今後について	第2期伊勢市空家等対策計画に基づき、引き続き管理不全空家の所有者に管理依頼を実施し改善を求めながら、老朽化した危険な空家について早期除却を更に促進することで居住環境の向上を図っていく。

④. 木造住宅耐震補強等事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	木造住宅の居住安全性の確保あるいは除却を通じて、まちなかの居住環境の向上に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	防災・安全交付金（住宅・建築物安全ストック形成事業）（国土交通省）（平成 28 年度～）
事業目標値・最新値及び進捗状況	本年度は、木造住宅無料耐震診断の申込みが 167 件、除却補助金の申込みが 138 件あり、耐震性のない木造住宅の除却工事が促進されたことにより、地域の安全性の向上に繋がった。
事業の今後について	耐震診断を受けた木造住宅のうち、耐震改修工事や除却工事が未実施の住宅について、個別に補助制度の案内を行うことにより、耐震対策を促進する。

⑤. まちなか移住創業促進事業【再掲】（伊勢市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市・商工会議所・まちづくり会社等の関係機関が連携し、主に市外、県外からの移住希望者を対象に、創業、就業、子育て支援等施策の PR や企画の検討、実施を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>[伊勢市中心市街地活性化協議会事務局]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月 1 回の頻度で、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社による移住創業促進会議を実施。 <p>(令和 3 年度の主な取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が参加する移住相談会や説明会の内容検討 ・伊勢市への移住をキーワードとして、市内での暮らしを体験的に紹介する移住 PR 動画「新・伊勢者語」の内容検討 ・若者定着に向けた地元企業経営者と皇学館大学生の交流事業の内容検討（12/22 実施） ・創業・就業促進にかかる情報共有 等
事業の今後について	<p>[伊勢市中心市街地活性化協議会事務局]</p> <p>月 1 回の頻度で、伊勢市、伊勢商工会議所、伊勢まちづくり株式会社による移住創業促進会議の実施継続するほか、連携して、PR や企画の検討等も継続していく。</p> <p>(参考)</p> <p>第 2 期伊勢市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 市の実施する移住イベント等への参加者数 目標値 1,000 人(令和 2～6 年度合計) 移住関連施策を利用した移住者数 目標値 100 人 (令和 2～6 年度合計)</p>

⑥. 店舗新築・住宅等リフォーム促進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	住宅や店舗のリフォーム・増改築及び店舗の新築を行う場合に、その工事費用の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、住宅関連産業の景気改善が不透明であることから増額の予算措置を行った。本事業請求時のアンケートによれば、本事業がリフォーム・増改築を行うきっかけとなったと回答した方が、毎年度 60%以上であることから、住宅改修等の意識高揚に繋がっていると考えられる。課題としていた店舗の交付件数が少ないことについては、令和元年度以降ほぼ横ばい状態となっているが、併用住宅の交付件数を含めると増加傾向にあり、少しずつ改善されている。</p> <p>【令和 3 年度】 予算額 2,700 万円（当初予算 1,800 万円） 申請件数 市全体：279 件、中心市街地：31 件</p> <p>【令和 2 年度】 予算額 2,400 万円（当初予算 1,800 万円） 交付件数 市全体：249 件、中心市街地：33 件</p>
事業の今後について	市内の経済や住宅関連産業の動向を注視して、予算の増減、補助対象の見直し及び拡充、空き家対策との兼ね合いについて検討していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地の居住人口の社会増減について、主要な事業は概ね順調に進捗しているものの、昨年に引き続き減少する結果となった。目標達成に向けて、まちなか居住の促進に繋がる事業を引き続き行う。

特に、居住人口の社会増減に繋がる主たる位置付けとなる「伊勢市駅前 C 地区第一種市街地再開発事業」については、組合が予定している令和 7 年度の工事完了にむけ、市・協議会が連携しながら事業の推進に対し支援を行い、分譲住宅の供給を行うことで、居住の促進を図る。

また、空家事業により空家の適正管理の周知や実態調査等を実施するとともに、耐震診断の結果、耐久性がないと判定された木造住宅について、耐震補強の補助により空家の再利用を図るなど、計画的空家対策を推進していく。さらに、中心市街地活性化区域内において空家対策に取り組むまちづくり団体との連携を深め、区域内の空家物件登録が進むよう取組を進める。

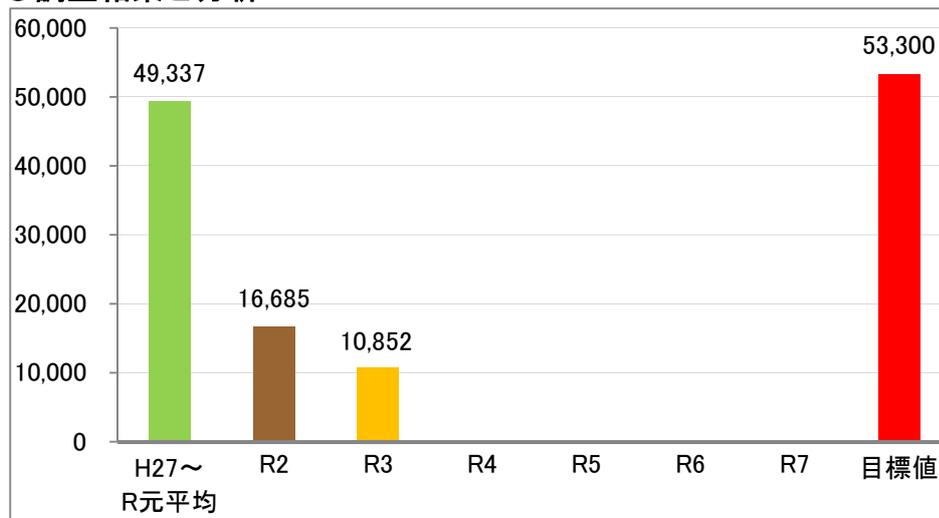
まちなか移住創業促進事業では、移住・起業希望者向けの移住セミナーへの積極的な参加、伊勢市移住 PR 動画などによる情報発信、学生との交流企画に力を入れ、まちなか居住の促進を図っていく。

目標達成に寄与する主要事業を実施し、まちの魅力を向上させることで、市外への転出者を減らし、市外からの転入者を呼び込むことに寄与できるものとする。

(4) 「観光関連施設等の利用者数」(目標の達成状況【C】)

※目標設定の考え方認定基本計画 P87~P89 参照

●調査結果と分析



年度	(人)
H27~	49,337
R元	(基準値)
R2	16,685
R3	10,852
R7	53,300
	(目標値)

※調査方法：観光統計

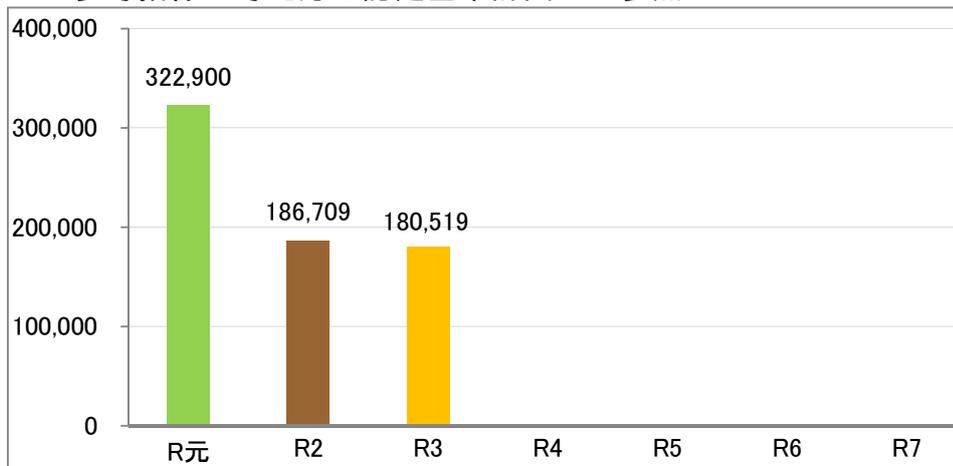
※調査月：令和3年1月~令和3年12月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地内の観光関連施設の利用者

【参考指標】中心市街地内宿泊施設の宿泊者数

※参考指標の考え方は認定基本計画 P90 参照



年度	(人)
R1	322,900
R2	186,709
R3	180,519

※調査方法：宿泊施設へ聞き取り

※調査月：令和4年3月

※調査主体：伊勢市

※調査対象：中心市街地活性化区域全域

〈分析内容〉

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、伊勢神宮（外宮・内宮）参拝者数が令和元年の9,729,616人に対して、令和3年が3,827,451人となる等、観光客が激減している状況である。さらに、観光関連施設利用の促進を図ることを目的としていた事業の中止が多数あること、また、目標指標としている「お伊勢さん観光案内人」事業が一部活動休止となったことが影響し、基準値を大きく下回る結果となった。

参考指標である中心市街地内宿泊施設の宿泊者数についても、多くの宿泊施設が一時休業をしていることから、一昨年と比べ、大幅に減少している。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 伊勢神宮奉納全国花火大会（伊勢神宮奉納全国花火大会委員会）

事業実施期間	昭和 28 年度～【実施中】
事業概要	全国各地から選抜された花火師たちが神宮に奉納し、日頃の研鑽の成果を神都伊勢の夜空に抱擁する「伊勢神宮奉納全国花火大会」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 3 年度大会については、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、開催中止となった。
事業の今後について	大会の魅力の磨き上げを行い、宿泊者数の増加など地域や飲食利用等、中心市街地のにぎわい創出を図り、観光消費を上げていく。

②. お伊勢さんマラソン（お伊勢さんマラソン実行委員会）

事業実施期間	昭和 57 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市出身でアテネ五輪女子マラソン金メダリストの野口みずき氏を大会長に迎えて「野口みずき杯中日三重お伊勢さんマラソン」を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 3 年度大会については、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、開催中止となった。なお、代替イベントとして、オンラインマラソンを実施した。
事業の今後について	大会宿泊プラン利用者における中心市街地エリアへの宿泊や飲食利用等を促し、観光消費を上げていく。

③. 駅前等イルミネーション事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市の玄関口にあたる伊勢市駅と宇治山田駅前広場及び伊勢市駅前商店街にイルミネーションによる灯りの演出をする。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	伊勢市駅と月ノ宮通り、宇治山田駅前にイルミネーションを装飾し、中心市街地の夜の魅力と周遊性を高めるための空間を演出した。
事業の今後について	点灯時期や演出内容について関係者と協議検討し見直しを行うことで、中心市街地エリアにおける夜の魅力創出を図る。また、飲食店や居酒屋等の周遊利用等を促し、観光消費を上げていく。

④. 公共交通機関とのタイアップキャンペーン事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	公共交通機関とタイアップし、旅行商品と連動させたポスター等を作成し、主要駅のポスター枠やデジタルサイネージ等に掲出する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	東海旅客鉄道とのタイアップによる東京駅等でのポスター展開について、上期（4 月～9 月）は 4 月～6 月に、下期（10 月～3 月）は 11 月～1 月に掲出した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により旅行需要が低下した時期があるものの、連動する旅行商品については、上期 530 件、下期 3,401 件の販売実績があり、市内において特典のクーポン引換実績も、上期 52 件、下期 1,512 件と、旅行需要が戻った際の来訪意欲向上と滞在時間延伸等に寄与している。
事業の今後について	令和 4 年度上期（4 月～9 月）事業は調整済みのため、継続して事業を推進していくとともに、下期（10 月～3 月）についても事業継続に向けて調整する予定。

⑤. 着地型旅行商品造成事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	何度も伊勢に来ていただく動機付けとなるような伊勢の魅力を盛り込み、多様化する観光客のニーズにも対応した、事業企画、旅行商品造成及びその販売促進を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 3 年 4 月～令和 8 年 3 月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	旅行商品や OTA、コンビニなどで販売するクーポンについて、新型コロナウイルス感染症の影響により旅行需要が低下したこともあり、販売実績は 9,331 件と、例年に比べ落ち込み、観光消費額の低下は否めない。ただし、旅行需要が戻った月や過去にも Go To トラベルキャンペーンが実施された時など、需要は大幅な回復を見せたこともあるため、一定程度は来訪意欲向上に寄与している。
事業の今後について	令和 4 年度事業は調整済みのため、継続して事業を推進していくとともに、クーポン内容のブラッシュアップも検討する。

⑥. ナイトタイムエコノミー推進事業（伊勢市観光協会）

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	夜間の地域経済を振興し、本計画地域において飲食業など夜間営業を行う業種へ新たな需要を喚起する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	事業計画では外宮周辺の夜の飲食店（居酒屋、バー等）を周遊する企画を検討していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の状況で事業を進めることが難しい状況が続いた。令和3年度は予算執行を見送った。
事業の今後について	令和4年度も前年度と同じ予算を計上する予定であり、新型コロナウイルス感染症の状況を見て事業の推進を行う。

⑦. 文化資源保存活用事業【再掲】（伊勢市）

事業実施期間	平成19年度～【実施中】
事業概要	「伊勢市全市博物館構想」に基づき、市全体を大きな博物館としてとらえ、全域に広がる博物館や自然・文化資産などを相互に連携させて有効活用を図る。また、整備予定の郷土資料館を拠点として、博物館施設の企画展示や催し物情報、季節に応じた見どころなどを情報発信する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	「伊勢まるごと博物館スタンプラリー」は市内外の博物館施設等にパンフレットを設置し、参加を案内している。「市民ふれあいスポカルウォーク」は5回の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1回のみ開催となった。「夏休み博物館イベント」は複数の施設で子ども対象の企画を催し、1,000人を超える参加があった。「伊勢の御師フォーラム2021」は年間を通じて講演会9回、展示会7回、体験企画7回を開催し、延べ約1,400人の参加があった。
事業の今後について	各博物館施設において、市民等に関心の高い催しの企画や、子どもの施設利用を促す企画等、来館者の増加につながる取組を進めていく。

⑧. 観光客への情報提供事業（伊勢市）

事業実施期間	平成5年度～【実施中】
事業概要	「外国人観光客案内所」の認定を受けた観光案内所を年間365日開設し、観光客への適時適切な観光情報の提供を行う。中心市街地内にある外宮界隈の様々なお店で特典が受けられるクーポンの販売や、旅行商品のノベルティ交換の請負、レンタサイクルの貸し出し等を行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	窓口案内件数：81,055件（35日間新型コロナウイルス感染症の影響により閉鎖） 新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、窓口案内、パンフレット配布、電話問い合わせ等、市内を訪れる観光客に対して案内サービス等の観光情報の提供を行っている。
事業の今後について	デジタルサイネージを活用した非接触型の案内サービスを取り入れるなど、新しい生活様式に対応した案内機能の検討を進める。また、新型コロナウイルス感染症の影響でニーズの高まっている混雑状況に関する情報等、市内を訪れる観光客に対して新たなニーズに合わせた観光情報の提供を行い、中心市街地活性化を図っていく。

⑨. レンタサイクル事業（伊勢市観光協会）

事業実施期間	昭和50年度～【実施中】
事業概要	公共交通での利便性が悪い中心市街地のエリアへの観光客やビジネス客の手軽な交通手段として、レンタサイクルを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の減少及び緊急事態宣言発出時のレンタサイクル貸し出し拠点の閉鎖（約1か月）があったが、まん延防止等重点措置が解除された3月に517台という過去5年でも最高の実績をあげ、年間収入予算300万円の目標を達成することができた。
事業の今後について	レンタサイクルを活用した事業を継続していく。令和3年度と同じく旅行商品への展開、OTAでの販売に力を入れて行く予定である。

⑩. まちなか案内事業【再掲】（伊勢商工会議所ほか）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	お伊勢さん観光案内人(商工会議所事業)、お伊勢さんまち歩きクーポン(まちづくり会社)等、地元住民から観光客まで、まちなかを案内するサービスを提供する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	「お伊勢さん観光案内人」事業は、緊急事態宣言及びまん延防止措置により一部活動休止を余儀なくされたが、伊勢まちづくり(株)と協力して三重県のおもてなし認証制度に登録するなど、ウィズコロナ、アフターコロナも見据えて感染拡大防止策を徹底していることをアピールした。しかし、令和3年の外宮の案内人利用客数は令和元年比 3.4%まで落ち込んでいる。また、「お伊勢さんまち歩きクーポン、神宮オーディオガイド」はデジタル化され、三重県民限定のキャンペーンなどで一時的に利用は増加したものの、年間を通しては観光客の激減でまちなか周遊は大きな成果を得ていない。
事業の今後について	コロナに対する国・三重県などの判断基準にのっとり、「お伊勢さん観光案内人」事業の活動を段階的に再開していく。「お伊勢さんまち歩きクーポン、神宮オーディオガイド」については、当面は三重県民対象に周知を行い、観光客の回復が見込める時期に合わせてWEB 広告などの周知活動を行う。

⑪. 観光客受入推進事業（伊勢市）

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	伊勢市が、伊勢地域観光交通対策協議会及び三重交通と協働で、パーク&バスライド利用者を対象に、外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券を配布する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和3年4月～令和8年3月）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客の減少が続き、パーク&バスライドを縮小。外宮前-内宮前間の路線バス無料利用券の配布事業実施も予定しなかった。
事業の今後について	アフターコロナにおける観光客の動向を注視し、内宮エリアに過大に集中するパーク&バスライドの利用者の中心市街地への誘導を、関係者、関係施策との調整を行った上で、実施する。

●目標達成の見通し及び今後の対策

観光関連施設等の利用者数について、基準値を大幅に下回る結果となった。

今後は、引き続き関連事業を実施してだけでなく、新しい視点を持った地域おこし協力隊員によって、地域資源を活かした体験メニュー等の観光商品開発や、観光地域づくりに効果的な情報発信を行うことで、観光客を誘致し、観光関連施設等の利用者の増加を図っていく。さらに、市民マラソンの代替イベントであるオンラインマラソンの実施、デジタルサイネージを活用した非接触型案内サービス、観光地混雑状況の情報提供等、with コロナ時代の新しい生活スタイルに対応した施策を行うことで、目標達成を目指していく。